

# 第1章 小中一貫教育を実施する学校施設の整備例

施設形態ごとに計11校の学校施設の先行事例を紹介し、第1部第3章第2で示した「小中一貫教育に適した学校施設の計画・設計における留意事項」について、その具体的内容を解説する。

	施設一体型									施設分離型	
	1 湖南小中学校	2 春日学園	3 荏原平塚学園	4 はるひ野小中学校	5 飛鳥学園	6 京都大原学院	7 京都教育大学附属 京都小中学校	8 府中学園	9 奈留小中学校	10 東山泉小中学校	11 府南学園
掲載ページ	P.29	P.33	P.37	P.41	P.45	P.49	P.53	P.57	P.61	P.65	P.67
開校年	平成17年	平成24年	平成22年	平成20年	平成22年	平成21年	平成22年	平成20年	平成20年	平成26年	平成20年
児童生徒数※1 (特別支援学級・児童生徒数)	205人 (0人)	1451人 (13人)	537人 (0人)	1364人 (24人)	374人 (3人)	76人 (2人)	861人 (35人)	991人 (17人)	85人 (1人)	685人 (10人)	1302人 (35人)
普通学級数※1 (特別支援学級数)	9学級 (0学級)	43学級 (4学級)	19学級 (0学級)	41学級 (9学級)	15学級 (3学級)	9学級 (2学級)	27学級 (6学級)	30学級 (4学級)	7学級 (1学級)	23学級 (3学級)	48学級 (13学級)
学年段階の区切り	6-3	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	6-3	4-3-2	5-4	6-3
整備手法※2	増築・改修	新築	新築	新築 (増築・改修)	新築	増築・改修	増築・改修	新築	新築	新築 増築・改修	改修
<b>計画・設計のポイント</b> (先行事例の主な特徴と計画・設計における留意事項[第1部第3章第2を参照]との関係)											
教育活動の 一貫性確保への 対応	小中一貫した教育課程 に対応した施設環境	●			●		●		●	●	
	学年段階の区切りに対応 した空間構成、施設機能			●	●	●		●	●		●
	異学年交流スペース の充実	●	●	●	●	●		●	●	●	
	小中一貫教育の取組の 高度化に資する共同利用				●		●		●		
学校運営の 一貫性確保への対応		●		●		●					●
小中一貫教育の実施に 適した安全性の確保	●		●					●			
既存学校施設の有効活用						●	●			●	
地域と共にある 学校施設の整備	●		●	●		●				●	

### 〈第2部内の表記について〉

- ・事例に使用する各校名称は愛称を用いている。
- ・開校年は小中一貫教育、小中連携教育の開始年を示す。
- ・児童生徒数、学級数等の情報は別途記載がない限り平成26年度時点のものとする。
- ・学年や施設設備の名称は便宜上統一した表記を採用している。

- ※1 児童生徒数および学級数は小・中学校全体を示している。
- ※2 整備手法は開校時点のものを示している。(はるひ野小中学校は児童生徒数の増加により、平成26年に校舎を増築・改修している。)

## 2 計画・設計の前提となる教育課程・運営状況

小中一貫教育に適した学校施設については、9年間の教育目標や教育課程を踏まえ、9年間一貫性のある教育活動を含めた学校運営ができる施設環境を確保すると同時に、地域ぐるみで子供たちの学びを支える場としての施設環境を確保することが重要である。地域の実情や各学校の特色ある教育課程等に十分考慮して、画一的な計画・設計とならないよう留意が必要である。

### [1] 教育課程・運営状況等の概要

ここでは、文科省実態調査や各校の公表資料を基に、先行事例における計画・設計の前提となる教育課程・運営状況等について比較(表3)し、その傾向について整理する。

	湖南小中学校	春日学園	荏原平塚学園	はるひ野小中学校	飛鳥学園
<b>1. 教育目標</b>					
9年間の教育方針・教育目標	ともに生き 未来を創る たくましい湖南の子	未来を拓き、社会に貢献 できる人材の育成	・「好学/まなぶ」:学習に熱心 に取り組み、自らの進路を決定 できる ・「誠意/つくす」:万人に真心 を尽くし、良好な人間関係をつ くる ・「鍛錬/きたえる」:自らの心身 を鍛え、最後までやり遂げる 強い意志と忍耐力をもつ	知力:楽しく遊ぼう 心情:助け合おう 体力:明るく生活しよう 小中連携:誰とでも仲良く しよう	・児童生徒のすぐれた個性 を伸ばし、「知・徳・体」の 調和のとれた人間形成を 小中連携で図る 一人一人が確かな学力を 身につけ、生涯にわたって 自ら学び続けようとする 態度を養うなど
学年段階の区切りごとの 方針・目標			[1~4学年] 学習や、生活集団に必要な 基礎・基本を身につける [5~7学年] 自ら学ぶ習慣や、良好な人間 関係を築く力を見につける [8・9学年] 進路決定に向け、自律と 自立に基づいた、行動・ 言動を身につける		[1~4学年] 学ぶ楽しさを知り、学んだ ことを生活に生かす [5~7学年] 主体的な学びを、場面や 状況に応じて活用する [8・9学年] 広い視野をもち、確かな 未来を切り拓く
<b>2. 教育課程</b>					
学年段階の区切りの設定	6-3	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2
小学校段階において 「教科担任制」実施の有無	●	●	●	●	●
「乗り入れ授業」実施の有無 (中学校教員が小学校で実施)	●	●	●	●	●
「乗り入れ授業」実施の有無 (小学校教員が中学校で実施)	●	●			
授業の1単位時間	[1~9学年] 45分	[1~6学年] 45分 [7~9学年] 50分	[1~4学年] 45分 [5~9学年] 50分* *第5学年後期から50分に移行	[1~4学年] 45分 [5~9学年] 50分	[1~4学年] 45分 [5~9学年] 50分
「教科教室型」導入の有無				●	
<b>3. 運営状況</b>					
校長	1人	1人	1人	小:1 中:1	小:1 中:1
副校長・教頭	小:1 中:1	小:1 中:1	小:1 中:2	小:1 中:1	小:1 中:1
職員室の一体化	●	●	●	●	●
<b>4. その他</b>					
域内の小中一貫教育 実施状況	1割以下	全域	全域	1割以下	全域
「学校選択制」導入の有無			●		
施設形態	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型
「学校運営協議会」導入の 有無					

表3 教育課程・運営状況等の比較

## 9年間一貫した目標設定

9年間をひとまとまりと捉えた教育目標を設定し、小中一貫教育の取組の中核である9年間の系統性や連続性を確保したカリキュラムを編成・実施している。

## 小・中学校段階間の接続の円滑化

一貫教育を進める上で、小学校高学年において一部教科担任制の実施や乗り入れ授業の実施等、小・中学校段階間の接続の円滑化に資するカリキュラム編成上の工夫が行われている。

## 学校運営協議会の導入

保護者、地域住民と教職員とが、学校の教育目標や、学校・子供が抱える課題やその解決策等を9年間を見通して共有し、より広い地域からの組織的・継続的な学校支援体制を整える観点から、小中一貫教育と学校運営協議会を有機的に組み合わせて取り組んでいる学校もある。

【凡例】 ●:該当有、 未記入:該当無

京都大原学園	京都教育大学附属 京都小中学校	府中学園	奈良小中学校	東山泉小中学校	府南学園
大原のゆとりある心を自信を持って伝えられる子に!	自らの将来展望を切り開いていく能力を身につけ、21世紀をリードする生徒を育成する	時を守り、場を清め、礼節を重んずる学校	自ら学び、自ら生き方を切り拓き夢を実現する児童生徒の育成	意欲をもって学び、自らの将来を拓く児童・生徒の育成	希望に向かい、かかわり合いの中で助け合い、頑張りが元氣いっぱいの府南っ子の育成
[1~4学年] 基礎学力の確実な定着	[1~4学年] 基礎・基本の定着	[小学部] 豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成		[1~5学年] すすんで学ぶ子ども よく考える子ども ゆめを話すことができる子ども	
[5~7学年] 基礎基本の徹底と学習の自立	[5~7学年] 学力の定着				
[8・9学年] 自学自習の定着と進路実現への総仕上げ	[8・9学年] 個性・能力の伸張	[中学部] 豊かな心を持ち、主体的に自己形成を図る生徒の育成		[6~9学年] 自ら学び、 将来を拓く力を持って、 夢と目標を語るができる子ども	
4-3-2	4-3-2	6-3	4-3-2	5-4	6-3
●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	●	●
	●		● ※高校教員による乗り入れ授業		●
[1~4学年] 45分 [5~9学年] 50分	[1~4学年] 45分 [5~9学年] 50分	[1~6学年] 45分 [7~9学年] 50分	[1~6学年] 45分 [7~9学年] 50分	[1~5学年] 45分 [6~9学年] 50分	[1~6学年] 45分 [7~9学年] 50分
		●			●
1人	1人	1人	1人	1人	小:4 中:1
小:1 中:1	小:2 中:2	小:1 中:1	小:1 中:1	小:2 中:1	小:4 中:1
●		●	●		
全域	—	全域	1割以下	全域	全域
	—				
施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設分離型 (1小+1中)	施設分離型 (4小+1中)
●				●	

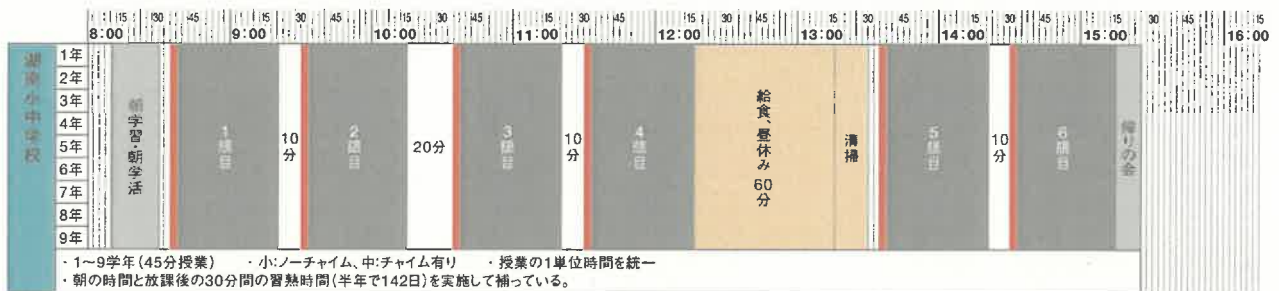
## 【2】時程の編成状況

特別教室などの学習関係諸室を共同利用することは、授業や学校行事等を通じた教科指導の連携や異学年交流の充実等が進み、小中一貫教育の取組の高度化が期待できる。共同利用を計画する際には、授業開始時間を揃えるなどの時間割の工夫、施設の使用調整、チャイムの設定方法等の運営面と合わせて検討することが重要である。

ここでは、施設一体型の先行事例における時程の編成状況について、授業の1単位時間や開始時間等に注目して3つに分類し、傾向について整理する。

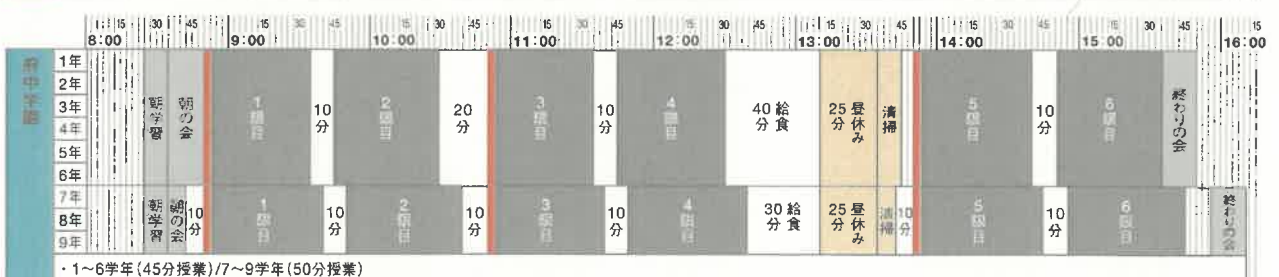
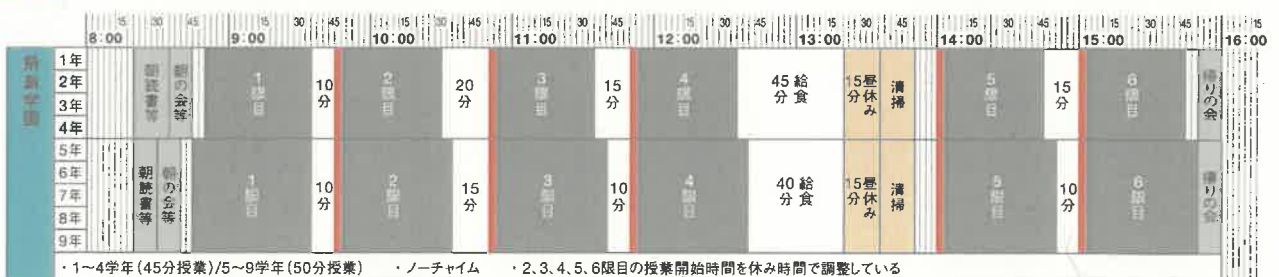
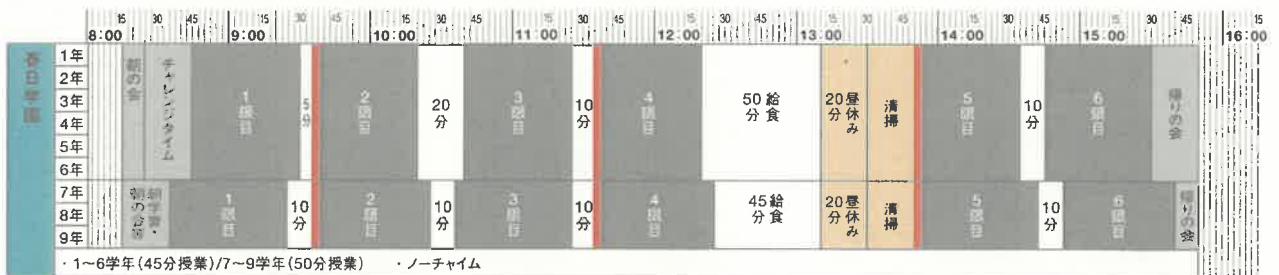
### ① 授業の1単位時間を統一

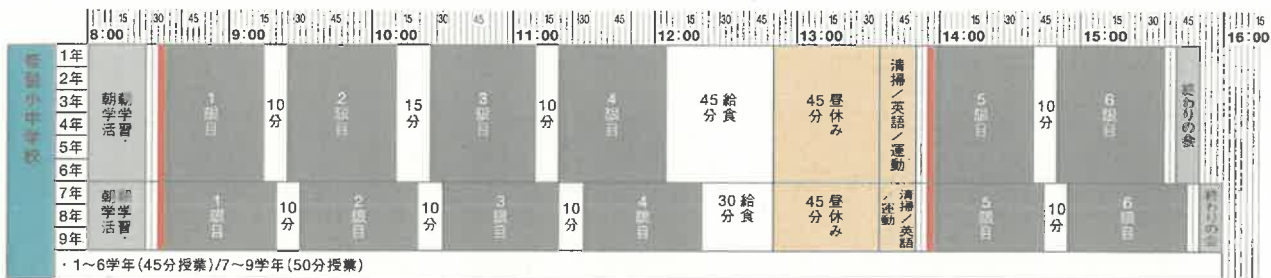
授業の1単位時間を45分に統一している。中学校の各教科などの年間授業時数は、朝学習と金曜日の6限以後に30分の授業を行い補っている。授業の開始時間を合わせることで乗り入れ授業や特別教室などの共同利用を行えるようにしている。



### ② 授業、昼休み、清掃の開始時間の統一

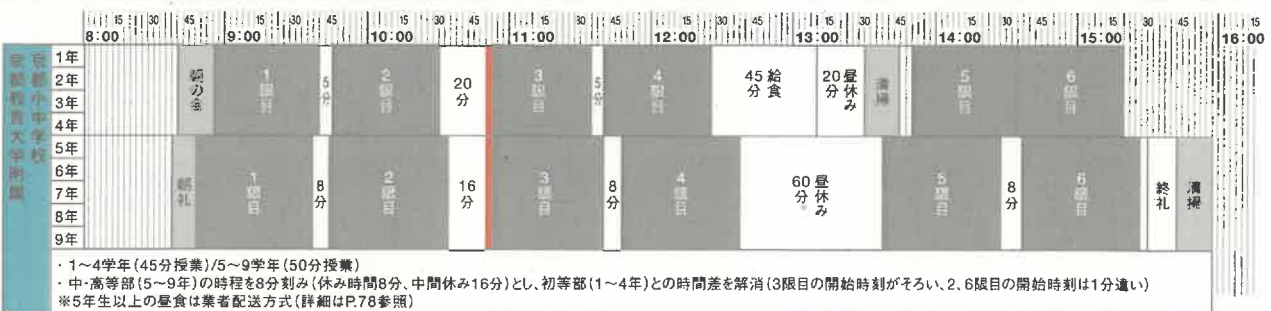
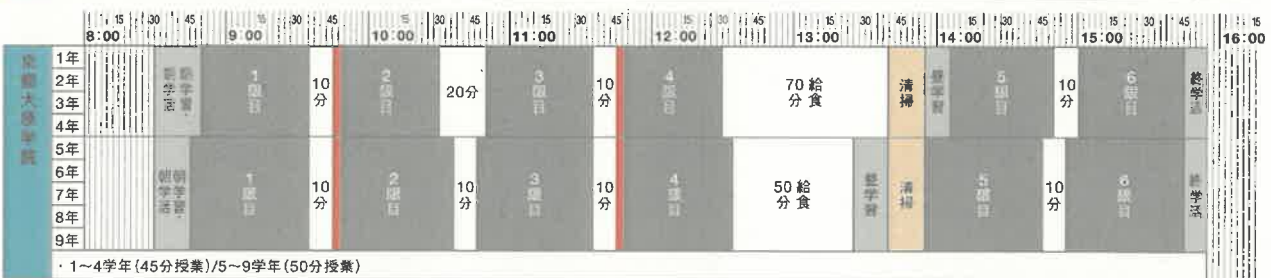
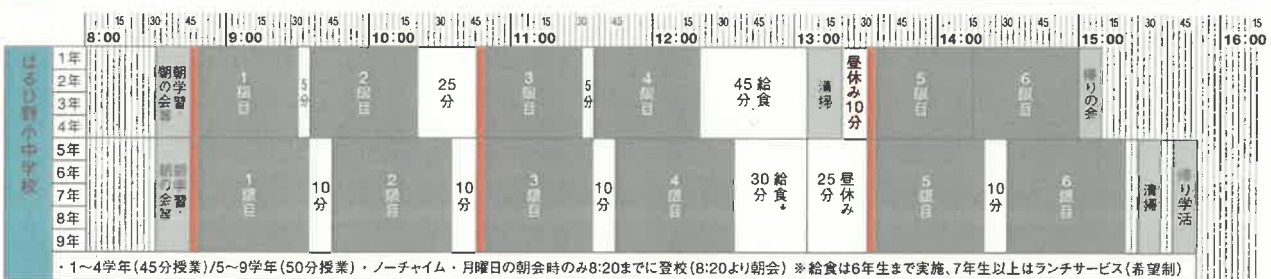
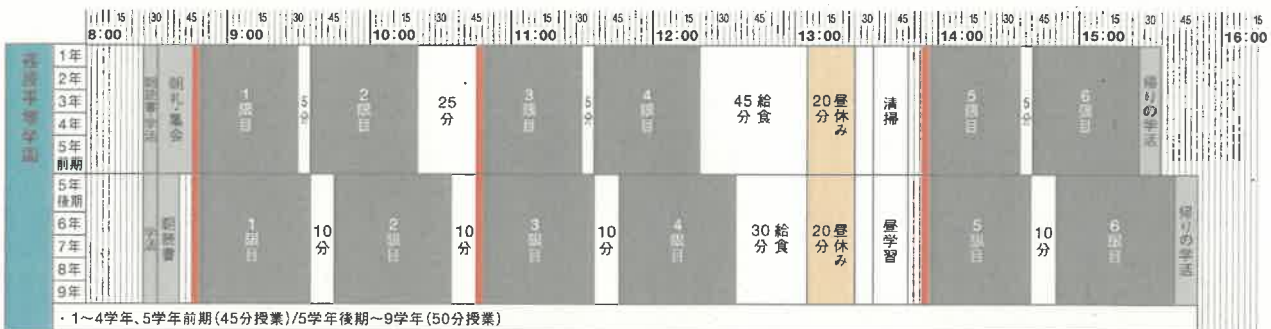
休憩時間などを調整し、授業開始時間を1日の中で複数統一することにより、乗り入れ授業や特別教室などの共同利用を行いやすくしている。また、授業以外においても異学年交流が可能となるよう昼休み・清掃時間も統一している。





### ③ 授業開始時間の統一

休憩時間などを調整し、授業開始時間を合わせることにより、乗り入れ授業や特別教室などの共同利用ができる時間帯を設けている。



施設一体型事例  
施設分離型事例  
事例間比較

### [3] 小・中学校合同で実施される学校行事等の概要

小中一貫教育に取り組む学校の計画・設計に当たっては、9年間の部活動、学校行事を含めた教育活動、学校開放での諸活動を具体的に想定し、規模や配置等を検討することが重要である。

ここでは、先行事例において小・中学校合同で実施されている式典や行事等の実施状況について比較(表4)し、その傾向について整理する。

	湖南小中学校	春日学園	荏原平塚学園	はるひ野小中学校	飛鳥学園
1.児童生徒数	205人	1464人	537人	1388人	377人
2.施設形態	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型
3.学年段階の区切りの設定	6-3	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2
4.式典					
入学式	●	●	●		●
卒業式	●	●			
始業式・終業式	●	●	●	●	● (1学期始業式のみ)
学年段階の区切りを意識させる取組	[4年生] ・1/2成人コンサート [6年生] ・中学生の卒業式に参加	[4年生] ・1/2成人式 ・前期ブロック修了証授与 [7年生] ・立志登山、立志宣言文 (中期ブロックの最高学年としての決意)	[1・7年生] ・新入生を迎える会 [4年生] ・立志式 [6年生] ・小学校課程修了式		[4年生] ・1/2成人式 [5～7年生] ・キャリア教育報告会
5.行事					
運動会	●	[1～4年生] [5～9年生]	[1～6年生] [7～9年生]	●	●
文化祭	●		●	●	[1～4年生] [5～9年生]
避難訓練等	●	●	●	●	●
集会	(一部) ●	●	●	● (週により合同・別々あり)	●
異学年合同で実施される行事	・部活動の選手壮行会 ・芋煮会等	・合唱祭 ・ブロック集会 ・電子黒板を使用した全校プレゼンテーションコンテスト	・学習成果発表会 ・異学年交流行事発表会 ・入学式・6・9年生がお手伝い ・小学生スポーツテスト:中学生がお手伝い	・合唱祭 ・弁論大会 ・青空昼食	・ヘア学年交流会 (1・9年生、2・8年生、3・7年生)
6.諸活動					
清掃	(実施時間は統一)	●			[1～6年生] ・縦割り掃除 [7～9年生] ・学級ごと
部活動	[7年生以上]	[6年生以上]	[5年生以上]	[5～6年生] ・ジュニアクラブ [7～9年生] ・部活動	[7年生以上]
児童生徒会	[4～6年生] ・児童会 [7～9年生] ・生徒会	[5年生以上]	[5年生以上]	[1～6年生] ・計画委員会 [7～9年生] ・生徒会	[1～6年生] ・児童会 [7～9年生] ・生徒会 [全学年] ・学園生徒会等
7.昼食					
給食の実施状況	[1～9年生] ・給食(学校給食料理員による運営(単独校方式))	[1～9年生] ・給食(給食センター方式(各階に配膳室))	[1～9年生] ・給食(自校調理)	[1～6年生] ・給食(学校給食料理員による運営) [7～9年生] ・ランチサービス(希望制)	[1～9年生] ・給食(調理員からカウンター越しに直接受け取るカフェテリア方式)
場所	[1～6年生] ・ランチルーム(180席) [7～9年生] ・各教室又はランチルーム	[1～9年生] ・各教室	[1～9年生] ・各教室又はランチルーム(5階ホール)	[1～6年生] ・各教室 [7年生] ・ランチルーム(3階) [8・9年生] ・ランチルーム(1階)	[1～9年生] ・ランチルーム(1階 ふれあいホール 400席)

表4 小・中学校合同で実施される学校行事・諸活動の比較

## 学年段階の区切りに対応した取組の充実

学年段階の区切りを意識させる儀式的行事や文化的行事等を行い、学年段階の節目を活用して意図的に成長を促す教育活動を充実させている。

## 小・中学校段階間の接続の円滑化

小・中学校合同での清掃活動や小学校高学年における部活動の実施、ランチルームにおいて異学年と交流しながらの食事等、授業以外においても異学年交流の充実に取り組み、小・中学校段階間の接続の円滑化を図っている。

【凡例】 ●:合同実施、未記入:別々で実施

京都大原学院	京都教育大学附属 京都小中学校	府中学園	菟橋小中学校	東山屋小中学校	府南学園
78人	896人	1008人	86人	695人	1337人
施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設一体型	施設分離型 (1小+1中)	施設分離型 (4小+1中)
4-3-2	4-3-2	6-3	4-3-2	5-4	6-3
●	●		●		
●	●		●	● (5年生参加)	
●	●		●		
[6年生] ・小学校課程の修了証書を 渡す立志式 [7年生] ・生徒手帳交付式 [5・8年生] ・年度初めにブロック進級式	・初等部、中等部、高等部それ ぞれのアルバムを作成	[7年生] ・中学入学時に集団宿泊研修		[6年生] ・ステージ進級式(東学舎に 迎える) ・小学校課程修了式	・学年末の修了式
●	●		●	●	
●	●	● (6年生が部分参加)	●	● (5・6年生交流)	
●	●	●	●		
● (毎月)	● 同一日に実施	●	●		
[全学年] ・縦割り清掃 ・1年生を迎える会 ・9年生を送る会 ・異学年授業等 [1~4年生] ・ブロック学習 [5~9年生] ・児童生徒会活動	[全学年] ・対面式、9年生を送る会、 附属フェスティバル [1~6年生] ・縦割り活動(動物園遠足) [5~7年生] ・総合学習、水泳大会、マラ ソン大会 [5~9年生] ・合唱コンクール、球技大会等	・小中合同演奏会(学期1回)	・遠足 ・音楽祭 ・かるた百人一首大会 ・集会(前期集会、中期集 会、後期集会)		・夏季休業中に小中合同 リーダー研修(児童会・生徒 会合同)を実施
●		(開始時間は統一)			
[5年生以上]	[7年生以上]	[7年生以上]	[7年生以上]	[6年生以上]	[7年生以上]
[5年生以上]	[5年生以上]	[4~6年生] ・児童会 [7~9年生] ・生徒会		[6年生以上]	[4~6年生] ・児童会 [7~9年生] ・生徒会
[1~9年生] ・給食(学校給食料理員に よる運営(単独校方式))	[1~4年生] ・校内調理方式(配膳給食) [5~7年生] ・業者配達方式(一部配膳給食) [8・9年生] ・業者配達弁当方式(希望者 申込制)	[1~9年生] ・給食(給食センター方式)	[1~9年生] ・給食	[1~6年生] ・自校調理(6年生分は東校舎 へ運搬) [7~9年生] ・選択制業者委託弁当方式	[1~9年生] ・給食(給食センター方式)
[1~9年生] ・ランチルーム(東館1階30席)	[1~4年生] ・各教室又はランチルーム (西エリア) [5~7年生] ・各教室 [8・9年生] ・ランチルーム(東エリア)	[1~9年生] ・各教室	[1~9年生] ・各教室	[1~9年生] ・各教室又はランチルーム (西学舎1階)	[1~9年生] ・各教室

# 京都大原学院

京都府 京都市立大原小学校・大原中学校



校舎外観

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	前期			中期			後期		
授業方法	学級担任制				教科担任制				
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分				50分				
校長	校長1人								
副校長・教頭	小学校教頭1人				中学校教頭1人				
部活動	なし				部活動				
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	本館2階		東館2階			本館2階		
校長室	本館1階								
職員室	本館1階								
保健室	本館1階		東館1階			本館1階			
特別支援学級	本館1階				東館2階				
音楽室	西館1階								
家庭料室	なし				東館1階(調理室・被服室)				
図書室	本館2階		西館1階			本館2階			
ランチルーム	西館1階 定員約30名(ふるさとルーム)								
昇降口	1階								
体育館	本館1階(講堂)・西館2階(体育館)								
グラウンド	グラウンド				サブグラウンド				
プール	1階 水深の調整(プールフロアで調整)								
給食室	1階(単独校方式)								

## 背景

京都大原学院の校区は京都市の中心部から北東へ15kmに位置し、市街化調整区域における、特別風致地区・歴史的風土保存地区を含んだ校区である。児童生徒数は年々減少しており、平成16年に少子化問題対策委員会が設置され、学校の存続をめぐる地域全体で協議した。少人数での教育に対する不安から近隣の学校と統合する案も出たが、「地域には学校が必要」という思いも強く、最終的に小中一貫校として、小中とも地域に存続することとなった。

平成19年に学校関係者、PTA、地域住民等からなる「学校運営委員会」を発足し、小中一貫教育についての検討を進め、平成21年4月に開校した。

## 学校概要

学校規模	[小] 普通 通:6学級(46人) 特別支援:1学級(1人)
	[中] 普通 通:3学級(30人) 特別支援:1学級(1人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成21年(2009年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上2階
校地面積	12,124㎡
延床面積	5,433㎡
用途地域	指定なし

## 教育上の特色

目指す子供像は「思いやりをもち、自ら汗のかける子」「科学的思考ができる子」「コミュニケーション力が発揮できる子」である。少人数の中で育った子供たちにとっては、コミュニケーション力が課題となる。そこで他校や留学生、観光客との交流や、多人数を前にした発表等、様々な人とふれあう機会を可能な限り多く持たせるようにしている。

総合的な学習の時間には「大人になる科」として自分の考えを地域に発信したり、自然と労働の大切さを学ぶ栽培活動を行ったりしている。また、英語学習を1年生から取り入れている。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校を兼務しており、さらに全職員に対し、兼務発令されている。教務・教科・生徒指導関係や学校事務は、小・中学校で共同実施している。



### 計画・設計のポイント

1. 既存学校施設の有効活用
2. 学校運営の一貫性確保への対応
3. 地域と共にある学校施設の整備

### 施設上の特色

- 小中一貫教育の実施に向けて、隣接する小中学校の既存校舎に対し、小中合同の昇降口、小中の校舎間をつなぐ渡り廊下、小中一体の職員室、子育て支援センターの整備を行い、その他は既存校舎を最大限活用している。  
校舎は旧中学校校舎の西館、東館、旧小学校校舎の本館の3棟で構成されており、東館を挟むように小中それぞれのグラウンドがある。
- 普通教室は、4-3-2の学年段階の区切りに合わせて、旧小学校校舎に1~4年と8~9年、旧中学校校舎に5~7年を配置している。特別教室は旧小学校、旧中学校のものをそれぞれ利用するため、動線が交わり、自然な異学年交流を促している。
- 施設内で保育施設や子育て支援センター、学童クラブ等の運営も行う地域の総合的な教育拠点となっている。

### 配置図

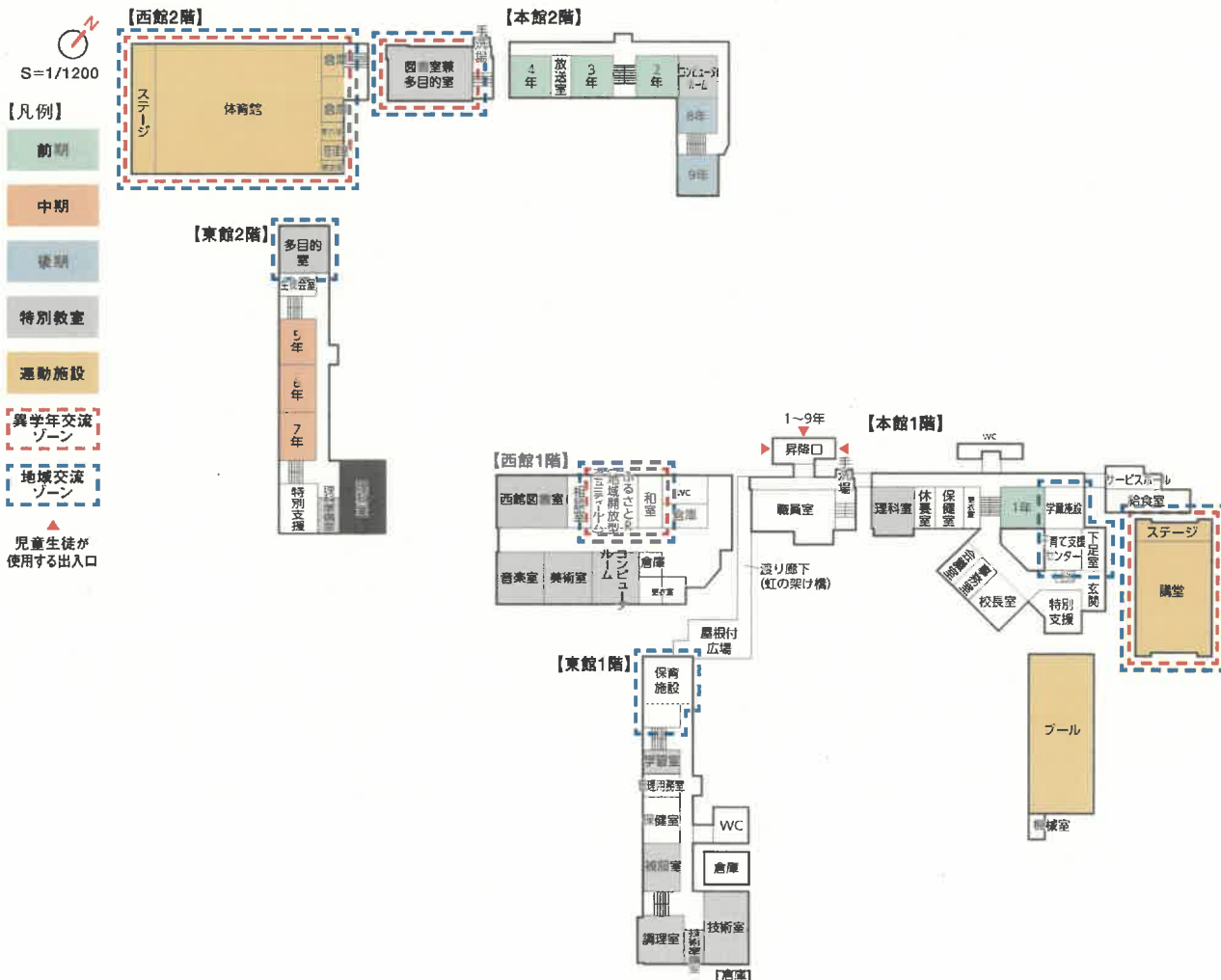


#### 【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの小中隣接敷地	
面積	グラウンド	6,686m <sup>2</sup>	
		小 3,325m <sup>2</sup>	中 3,361m <sup>2</sup>
	校舎	4,275m <sup>2</sup>	
	小 2,110m <sup>2</sup>	中 2,165m <sup>2</sup>	
	体育館	1,158m <sup>2</sup>	
		小 330m <sup>2</sup>	中 828m <sup>2</sup>

### 平面図



施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 1. 既存学校施設の有効活用

### 増築・改修

隣接する小中学校の既存施設を活かしつつ、小中一貫教育に適した学校施設となるように、増築・改修を行っている。

### 昇降口



校舎中央付近に増築した小中合同の昇降口。職員室が隣接しており、人の出入りなどの管理も行きやすい計画となっている。

### 渡り廊下



本館と東館をつなぐ渡り廊下を増築し、施設としての一体感や学習・生活の利便性を高めている。

### 体育館



小中が共同利用することから、児童生徒の体格や運動量の違い等に配慮し、バスケットボール用のコートには高さの異なる2種類のゴールを設置した。



## 2. 学校運営の一貫性確保への対応

### 職員室

小中教員の密接な連携を重要視し、小中一体の職員室を改修整備した。

開校当初の座席配置は分掌ごとの配置としていたが、現在は、より情報が伝わりやすいように学年段階の区切りごとの配置としている。

	前期			中期			給食調理員	SC
	1年	3年	3・4年	5年	6年	7年		
教務主任 (小)								
教頭 (小)	2年	4年	4年	5年	6年	7年	図書館支援員	ALT
教頭 (中)	9年	9年	養護教諭	他校兼務教員 (中)	非常勤講師 (中)	非常勤講師 (中)	非常勤講師 (小・中)	
校長	8年	8年	育成学級担任	事務職員 (中)	事務職員 (小)	管理用務員 (小)	管理用務員 (小)	

後期

※3～9年は学級副担任も含む  
職員室座席配置



### 3. 地域と共にある学校施設の整備

#### ▮ 地域のコミュニティー拠点

小中一貫教育に加えて、保育機能と子育て相談機能も備えた地域の総合的な教育拠点となっている。また地域住民の利用を意識したランチルームや図書館等も整備されており、地域のコミュニティー拠点としての役割も担っている。

#### ▮ 子育て支援センター

保護者同伴の0歳から3歳の幼児を対象とした無料の子育て支援センター（つどいの広場『ぴーちくぱーちく』）。

旧小学校校舎の図工資料室を改装して整備している。



#### ▮ 保育施設

京都市独自の保育事業として、0歳から6歳の子供を対象に、認可保育所に準じた家庭的な保育を実施している（昼間里親施設『小野山わらんべ』）。

旧中学校職員室と校長室を改装して整備している。



#### ▮ 大原ふるさとルーム

地域開放型のコミュニティールームとして、校内会議や児童生徒の学習室として利用されるほか、地域住民の会合にも利用している。



施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 校長の視点から

いしとび さとし  
京都大原学院 校長 石飛 聡

0～15歳の学舎を実現している本校は、保育施設「小野山わらんべ」の存在が大きいです。児童生徒が必ず通る廊下に面し、透明な大きな窓の奥には、元気な保育児童の姿が見られます。また、本館と東館をつなぐ渡り廊下（虹の架け橋と命名）や、西館入口には地域の写真や作品を展示しています。本校のキーワード「つながり」を、随所に見ることができます。

今後は、地域とよりつながる「地域図書館」や全員で給食が食べられる「ランチルーム」の設置を検討していきたいと考えています。

# 荏原平塚学園

東京都 品川区立平塚小学校・荏原平塚中学校



グラウンド側から見た校舎外観

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学 年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	初等部				中等部			高等部	
授業方法	学級担任制				教科担任制				
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分				※	50分			
校長	校長1人								
副校長・教頭	小学校副校長1人				中学校副校長2人				
部活動	なし				部活動				
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	2階	3階				4階		
校長室	2階								
職員室	2階(校務センター)								
保健室	1階								
特別支援学級					なし				
音楽室	2階				5階				
家庭科室	なし				5階				
図書室	3階(メディアセンター)								
ランチルーム	5階(ホール)								
昇降口	各教室へ直結				1階				
体育館	地下2階、地下1階								
グラウンド	グラウンド								
プール	6階(床昇降式)								
給食室	1階(単独校方式)								

※ 第5学年の後期から50分に移行

先行事例

## 背景

品川区では平成15年に小中一貫特区の認定を受け、平成18年度から区内全ての小・中学校において、小中一貫教育への本格的移行を実施した。平成22年4月に品川区で4校目の施設一体型の小中一貫教育校として荏原平塚学園を開校した。

## 学校概要

学校規模	[小]普通:13学級(359人) [中]普通:6学級(178人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成22年(2010年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階/地下2階
校地面積	12,113m <sup>2</sup>
延床面積	14,202m <sup>2</sup>
用途地域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域

## 教育上の特色

「好学」「誠意」「鍛錬」を教育目標とし、9年間を通して自ら熱心に学習し、万人に真心を尽くし、心身を鍛えて強い意志と忍耐力を養うための指導に取り組んでいる。

児童生徒が目標に向かって計画的な学習に取り組むために、各学年における1年間の学習指針を示した「荏原学習ガイド」を毎年配布している。また、児童生徒に生活規律や実践力を身に付けさせるための市民科学習や、全児童生徒が1年間継続して行うあいさつ運動などを実施している。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校を兼務しているが、副校長が3名配置されており、それぞれ小中の担当が決まっている。

全職員に対して兼務発令されており、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

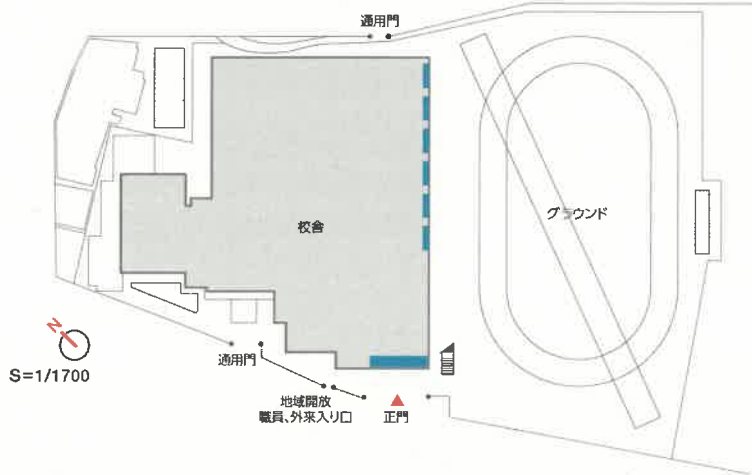
### 計画・設計のポイント

1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能
2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
3. 異学年交流スペースの充実
4. 地域と共にある学校施設の整備

### 施設上の特色

- 都市部の施設一体型校として、校舎の地下2階に体育館を配置し、屋上にプールや広場を設けるなど、コンパクトな建物とすることで、可能な限り広い面積のグラウンドを確保している。
- 普通教室は、学年段階の区切りに合わせて1~4年を1、2階、5~7年を3階、8~9年を4階のグラウンド側にまとめ、特別教室は普通教室と階段を挟んで反対側にまとめて配置されている。
- 昇降口については、児童生徒の日常や避難時の安全性に配慮し、分散して配置しており、1~4年の昇降口は各教室のグラウンド側に設けてある。

### 配置図



【凡例】

■ 昇降口

▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの中学校の敷地	
面積	グラウンド	4,900m <sup>2</sup>	
	校舎	小	12,111m <sup>2</sup>
		中	6,201m <sup>2</sup>
体育館	2,091m <sup>2</sup>		
	小	906m <sup>2</sup>	1,185m <sup>2</sup>

### 平面図

S=1/1700

【凡例】

初等部

中等部

高等部

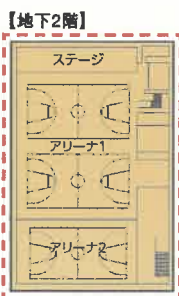
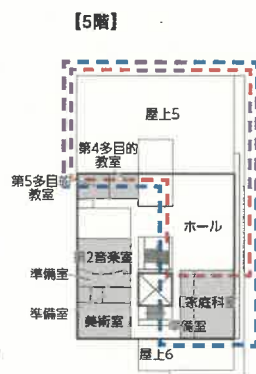
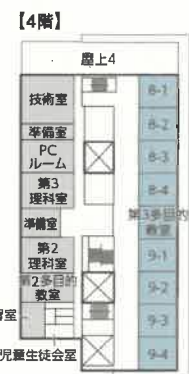
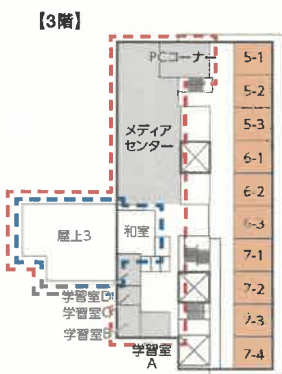
特別教室

運動施設

異学年交流ゾーン

地域交流ゾーン

▲ 児童生徒が使用する出入口



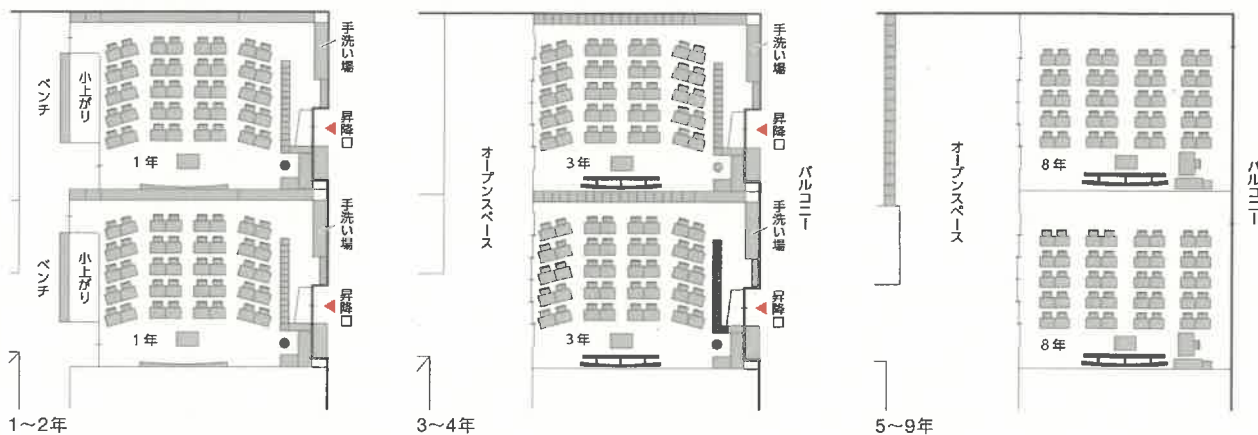
施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 1. 学年段階の区切りに対応した空間構成、施設機能

### 教室・教室周り



普通教室周りは、学年ごとの学習形態の進展に応じた計画となっている。

1~2年の教室は昇降口、手洗い場、ロッカー等を教室内に配置してさまざまな機能が教室内でまかなえる自己完結型の教室となっている。

3~4年の教室はクラス単位での活動を中心に想定し、教室内の設備を充実させると共に、クラス単位のグループ学習だけでなく学年単位での習熟度別学習にも対応できるオープンスペースを併設している。

5年以上の教室は学年単位の習熟度学習に対応し、オープンスペースにPCを置いた学習スペースを設置している。ステップアップ学習（基礎学力向上）に利用できる多目的教室を同じフロアに計画している。

## 2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

### 動線



1~4年は各教室に昇降口が整備されており、バルコニーから直接教室へ入ることができる。学年が上がることによる環境の変化を実現すると共に、避難ルートとしても有効である。また普通教室のあるフロアには3カ所に階段を設けている。階段ごとに色分けし、中央の階段は幅を広くすることで、通常時も避難時も児童生徒が混雑しないように計画している。

### 全天候・全学年対応型プール



校舎最上階の6階に設置したプールは、全天候に対応できるよう開閉屋根式を採用し、5月~10月の授業に対応している。また、水位調整のバランスタンクの代わりに小プール（右写真奥）を設置し、低学年の児童が安全に使用できるようにしている。

### 3. 異学年交流スペースの充実

#### ■ メディアセンター周辺



全学年が利用し易い3階に図書室とPC教室を一体化したメディアセンターや、和室、多目的教室を設けている。和室は図書の閲覧にも利用できるほか、屋上の日本庭園に面し、日本の四季の変化を感じることができる。これらは学年間だけでなく、地域住民を含めた多様な交流の場としても活用している。

施設一体型事例

### 4. 地域と共にある学校施設の整備

#### ■ 近隣に配慮した配置計画



体育館の地下化やプールの屋上設置等、土地の高度利用を行い、広い面積のグラウンドを確保すると共に地上部分の校舎のボリュームを押さえている。

さらに低層住宅地側には、歩道やポケットパーク、屋上緑化を設置する等圧迫感の軽減を図り、周辺の良好な環境づくりに配慮している。

#### ■ ホール



5階のホールは家庭科室や屋上テラスと連続して作られており、異学年交流だけでなく、地域利用など多目的に使える空間としている。

施設分離型事例

事例間比較

## 校長の視点から

荏原平塚学園 校長 青木 経

施設一体型小中一貫校において一番に配慮しなければならないのは、それぞれの学年やブロック、更には学園全体で行う学習活動に応じた施設が整っているかです。

本学園は今までの小中一貫校の問題点が改善され、子供たちの動線に配慮した低学年の教室や高学年での個別学習が可能な学習室が整っています。また、2カ所の屋上広場や文化的な施設を集中させた3階には和室と日本庭園があり、精神的にゆとりある環境を生み出しています。

# 春日学園

茨城県 つくば市立春日小学校・春日中学校



校舎外観

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学 年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	前期			中期			後期		
授業方法	学級担任制				教科担任制				
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分				50分				
校長	校長1人								
副校長・教頭	小学校教頭1人				中学校教頭1人				
部活動	なし				部活動				
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	2階	1階	3階	2階	3階			
校長室	特別教室棟1階								
職員室	特別教室棟1階(校務センター)								
保健室	特別教室棟1階								
特別支援学級	特別教室棟1階								
音楽室	特別教室棟1階			特別教室棟3階					
家庭科室	なし				特別教室棟3階				
図書室	特別教室棟2階								
ランチルーム					なし				
昇降口	普通教室棟1階								
体育館	1階								
グラウンド	サブグラウンド				グラウンド				
プール	1階								
給食室	特別教室棟1～3階(給食センター方式)								

## 背景

つくばエクスプレスの開通に伴い、研究学園都市駅周辺の住宅開発が進み、人口が急増。このため、施設一体型の小中一貫校の新設を計画、平成24年4月に開校した。

春日学園は、つくば市で初めての施設一体型校である。つくば市では、平成24年度から、市内の全小・中学校53校(15学園)において、小中一貫教育を本格実施している。

## 学校概要

学校規模	[小] 普通:34学級(1163人) 特別支援:2学級(11人) [中] 普通:9学級(288人) 特別支援:2学級(2人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成24年(2012年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	46,628㎡
延床面積	14,718㎡
用途地域	第一種中層住居専用地域

## 教育上の特色

「未来を拓き、社会に貢献できる人材の育成」を教育目標とし、9年間の継続的な学びを通して「論理的に考える力」「人と豊かにかわる力」を育てることを重点においている。

5年生から部分的に教科担任制を導入するなど、4-3-2制を取り入れた柔軟な区切りを設けると共に、「考える時間」「つくばスタイル科」等、9年間の学びの連続性を活かしたカリキュラムを構築している。

また、兼務発令による中学校数学教員の小学算数授業、小・中学校教員による音楽のT・T授業や、大学や研究機関との連携によるロボットの授業等、多様で実践的な活動を行っている。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教育課程の編成や生徒指導の中心となる教諭や養護教諭、事務職員は兼務発令されており、小中相互の乗り入れ授業の実施、教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。



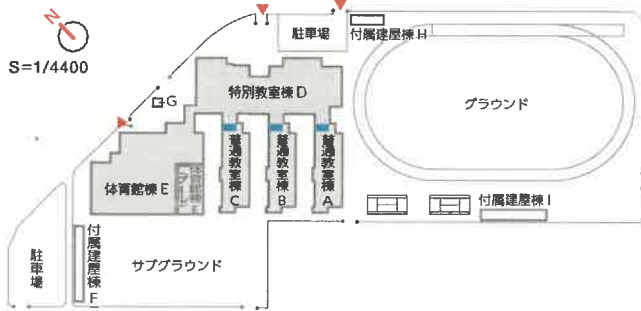
計画・設計のポイント

1. 異学年交流スペースの充実
2. 小中一貫した教育課程に対応した施設環境
3. 学校運営の一貫性確保への対応

施設上の特色

- 普通教室棟は、体格差や発達段階、学年ごとの授業運営等に配慮し分棟形式としている。各普通教室棟（3棟）、特別教室棟、体育館棟は全て南北、東西方向に抜けるスクールアベニュー及び2階・3階の渡り廊下によってつながれており、児童生徒・教職員の交流を促進するとともに、大規模校でありながらスムーズな生活動線を確保している。
- 特別教室や管理諸室は共用としており、特別教室棟は階によって科学・芸術・メディアといった分野ごとにまとめられて配置している。管理諸室は、スクールアベニューや校門、各棟出入口を見通せる位置に設けている。

配置図

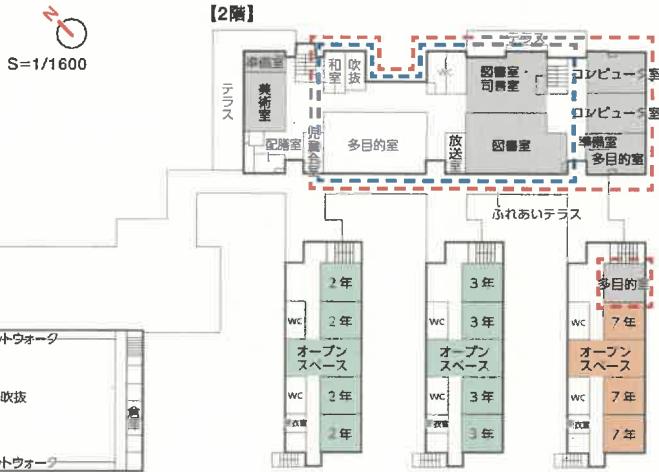


【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

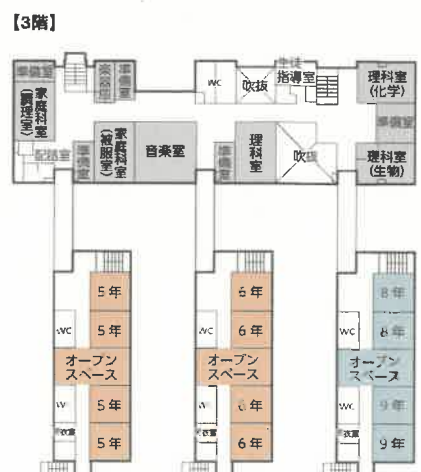
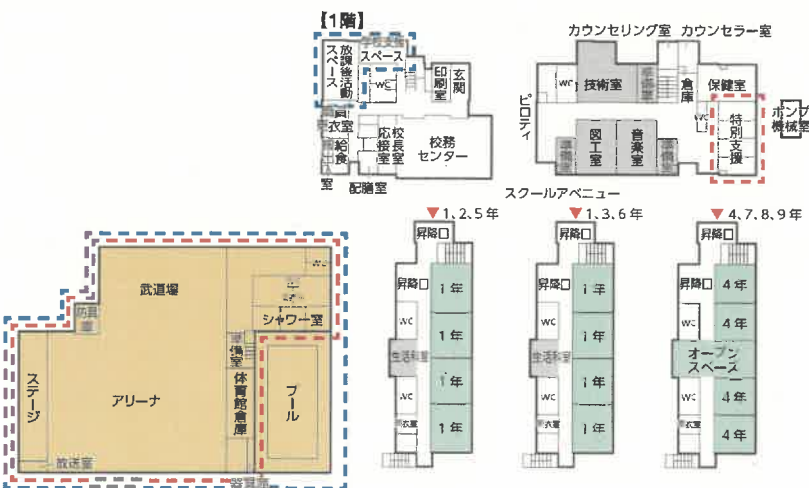
校地計画		新しい敷地	
面積	グラウンド	小 4,046m <sup>2</sup>	中 22,148m <sup>2</sup>
	校舎	小 7,520m <sup>2</sup>	中 5,171m <sup>2</sup>
		体育館	小 1,006m <sup>2</sup>
		2,027m <sup>2</sup>	

平面図



【凡例】

- 前期
- 中期
- 後期
- 特別教室
- 運動施設
- 異学年交流ゾーン
- 地域交流ゾーン
- 児童生徒が使用する出入口



※平成25年度時点のゾーニングを示す。児童生徒数の増加により計画時のゾーニングとは異なる。  
 ※つくば市においては、春日学園の児童生徒数の増加に伴い、施設一体型小中一貫校となる分離新設校の整備を計画している(平成30年4月開校予定)。

## 1. 異学年交流スペースの充実

### ■ スクールアベニュー・渡り廊下



敷地の東西・南北および各棟をつなぐスクールアベニューと、各棟の2・3階をつなぐ渡り廊下は、分散している各棟をつなぐ動線としてだけでなく、コミュニケーションを促進する役割も果たしている。

### ■ 図書室



図書室は低学年と高学年でゾーンが設けられてはいるが、全体的には間仕切りがなくオープンな作りとなっており、異学年の自然な交流ができる空間となっている。低学年ゾーンの閲覧スペースには、木よりも柔らかいコルク床を採用している。高学年ゾーンでは落ち着いて読書や調べ物学習に取り組めるように机や本棚を配置している。

### ■ コンピュータ室



コンピュータ室は図書室と同じフロアに配しメディアゾーンとして一体的な利用も可能となっている。家具が分散配置型となっており、交流授業で上級学年が指導に参加する際にも適した空間となっている。

## 2. 小中一貫した教育課程に対応した施設環境

### 理科室



理科室は小学生用、中学生用とも3階に集め、小学生用は、実験時に全員が黒板を向けるように半楕円形の教室となっている。

### 音楽室



5年生から9年生が利用する3階の音楽室はほかの特別教室より広く面積をとっており、ゆとりあるスペースを活かした創作・表現活動を展開している。

### つくばスタイル科

「つくばスタイル科」を中心とする9年間の連続した活動の中で、つくば市全体で取り組まれている「つくば次世代型スキル」の育成を目指している。つくばスタイル科では近隣の大学や研究機関等と連携し、バランスのとれた人間性と国際的な視点を兼ね備えたつくば市民の育成をテーマに様々な活動に取り組んでいる。



電子黒板を活用したプレゼンテーション ロボットを活用したテレビ会議

## 3. 学校運営の一貫性確保への対応

### 校務センター



スクールアベニューに面し、窓から校内の様子が見える



ICT機器を活かした職員会議

職員室、事務室が統合された校務センターは、スクールアベニューに面し、校門や各棟の出入口を見通すことができる位置にあり、児童生徒の様子を見守りやすい。また、積極的なICT機器の導入が図られており、広く人数の多い校務センターにおいても、ICT機器を活かし職員間の情報共有・意思統一を図っている。

## 校長の視点から

春日学園 校長 片岡 浄

本学園では、小1～中3までの子供が、同じ学舎で学んでいます。また、9年間の連続した学びを保障し、人と豊かに関わる力の育成に努めています。その校舎の特長は、明るくオープンな雰囲気のある教室、読書に集中することができる学校図書館、発達段階を配慮した特別教室等、学年や学級の垣根を越え、人間関係を構築しやすい環境構成になっています。子供や保護者からの評判も極めてよいです。これからも恵まれた施設で、異学年交流や小中の教員による交換授業等特色ある教育の推進に努めていきたいと考えています。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較